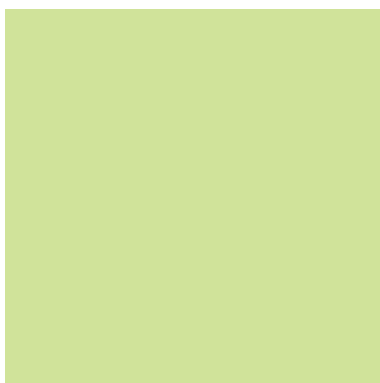
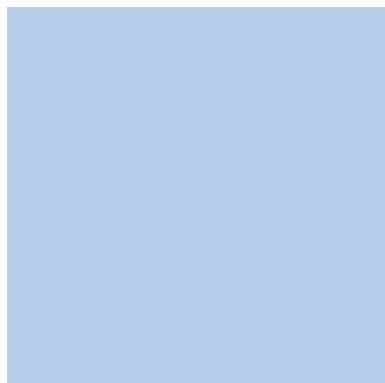
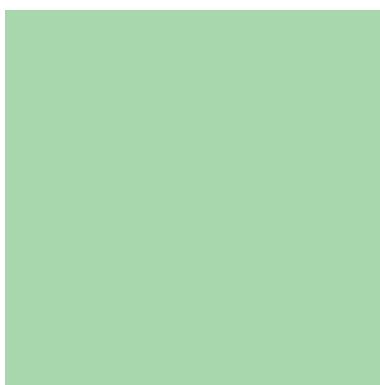


# 守山市河西魅力 情報マップ

私たちの住む河西は、文字通り野洲川の西にあり、野洲川とともに生きて来たまちです。野洲川の豊かな水の恩恵を受けつつ、度重なる洪水の恐怖と戦った歴史を残すまちです。

野洲川の改修で景観や暮らしの環境は一変しましたが、四季を彩る自然や歴史ある伝統・文化を今に伝える魅力あふれるまちです。

## 解説版



## はじめに

河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクトは、平成 25 年に開催された「守山まるごと活性化プラン検討委員会(河西学区会議)」で提案された 5 つのまちづくりプロジェクト<sup>注1)</sup>の内の一つです。

河西学区の見どころや伝統行事の中には、地域住民の間でもあまり知られていないものが多くあります。

そこで、河西の魅力をまとめたマップの作成やブログによる河西情報の発信を活発化することで、より多くの方々に我々の住むまちの魅力を身近に感じて楽しんでもらいたいという願いが本プロジェクト発足の背景であり、取り組みの主旨です。

これまでに、守山市役所の若手職員で構成する「夢、未来、元気塾」の協力の下、「河西まるごとブログ」<sup>注2)</sup>を立ち上げ、学区の行事や花だより情報、各プロジェクトの活動など、河西学区の様々な情報発信をしています。今後も本情報ツールを通じて、河西のタイムリーな情報発信を行いたいと考えていますので、皆様方からの話題提供をお願いしたいと思っております。

一方、「見どころマップ」の制作は、既刊の「守山市学区別歴史街道マップ」(2000 年の市制施行 30 周年記念として発刊)が情報として現状にそぐわないところもあり、そのリニューアル作業として取り掛かりました。作業を進める中で、マップのみでは史跡などの歴史的背景、見どころの面白さや意義が伝わりにくいので、もう少し詳細な説明用冊子も併せ制作する必要があるとの結論からマップとリンクしたガイド冊子を制作することとなりました。

本冊子は、編集メンバーが約 1 年半にわたり地域を訪ね歩いて学んだり、地域の識者から教示願った情報を整理したのですが、何分戦後生まれや他の土地から移り住んだ、およそ河西の歴史や文化に不案内なもので構成された編集メンバーにとって苦労が多かった半面、この機会に改めて接した河西の歴史・風土は極めて新鮮で興味深いものでもありました。まだまだ不完全な冊子ではありますが、皆様方のご教示を乞うと共に多くの皆様に河西の魅力を再発見していただければ望外の喜びです。

---

注 1) 5 つの「まちづくりプロジェクト」

A プロジェクト：野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

B プロジェクト：近江妙蓮活用プロジェクト

C プロジェクト：河西の「身近な魅力」発信プロジェクト

D プロジェクト：河西のみんなで「つながる」プロジェクト

E プロジェクト：健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

注 2) 守山・河西まるごとブログ

<http://riverwest.shiga-saku.net/c50763.html>



## 目次

			マップ 参照番号		ページ
I 概要編					
	河西学区概要	.....			1
	河西の水源と水路	.....			2
	野洲川堤防	.....			3
	水害史跡	.....			5
	河西の古道と道標	.....			6
	河西学区の遺跡	.....			8
II 神社編					
	笠原 蜷江神社	.....	2	.....	9
	川辺 蜷江神社	.....	10	.....	10
	田中 八幡神社	.....	13	.....	11
	喜多 天神社	.....	16	.....	12
	川田 天神社	.....	20	.....	13
	中 若宮神社	.....	29	.....	14
	小島 天満宮	.....	32	.....	15
	阿比留 八田神社	.....	35	.....	16
	播磨田 八大神社	.....	45	.....	17
	布施野 荒神社	.....	48	.....	18
	今市 皇小津神社	.....	50	.....	19
	荒見 天神社	.....	56	.....	20
III 寺院編					
	笠原 仏眼寺	.....	4	.....	21
	笠原 順教寺	.....	6	.....	22
	川辺 浄宝寺	.....	9	.....	23
	田中 教順寺	.....	12	.....	24
	喜多 正蓮寺	.....	15	.....	25
	川田 浄雲寺	.....	22	.....	26
	川田 正福寺	.....	23	.....	27
	中 教信寺	.....	27	.....	28
	中 永生寺	.....	28	.....	29
	小島 重願寺	.....	30	.....	30
	小島 源福寺	.....	31	.....	31
	阿比留 西方寺	.....	34	.....	32
	播磨田 西蓮寺	.....	41	.....	33
	播磨田 延命寺	.....	46	.....	34
	播磨田 圓立寺	.....	47	.....	35
	布施野 万願寺	.....	49	.....	36
	今市 願立寺	.....	52	.....	37
IV 自然・文化・歴史					
	野洲川改修記念公園	.....	1	.....	38
	蜷江神社境内	.....	2	.....	39
	水災記念碑	.....	5	.....	41
	城野曹長の碑	.....	7	.....	41
	川辺の集団移転記念碑	.....	8	.....	42
	近江妙蓮	.....	11	.....	43
	近江妙蓮公園	.....	11	.....	44
	喜多の淡瀬桜	.....	17	.....	45
	川田の一本松	.....	21 & 25	.....	46
	合村伝説と石仏	.....	24	.....	47
	若宮神社の神事	.....	29	.....	48
	児島城址	.....	32	.....	49
	阿比留の川戸	.....	33	.....	50
	丸坪の碑	.....	36	.....	51
	鳩の森公園	.....	37	.....	52
	播磨田湯と田中幸右衛門顕彰碑	.....	38 & 39	.....	53
	水止め石	.....	40 & 53	.....	54
	高田信岳と顕彰碑	.....	42	.....	55
	西蓮寺板碑	.....	43	.....	55
	杉本家屋敷	.....	54	.....	56

## 河西学区の概要

### 1) 学区のはじまり

近江は、奈良時代の律令制度により寺社や貴族が直接支配する荘園化が進み、その後江戸時代においても、天領、大名領、旗本領などの飛び地によって、所領が全国でもまれにみるほど細かく分割されていました。守山においても同様に河西では、播磨田（淀藩）、今市（淀藩）、荒見（淀藩）、小島（大溝藩）、川田（淀藩、大溝藩、朽木領、斎藤領、能勢領）、中（三枝領）、笠原（酒井領）と複雑に入り組んだ統治がされていました。

現在の河西学区は、明治 22 年（1889）の市町村制の施行で、小島、播磨田、今市、荒見、笠原、中、川田の 7 か村が統合され河西村となったのが始まりです。

その際、村の名称を「勝水村」にしてはどうか、という案が出ました。河西は文字通り野洲川の西に広がる緑豊かで美しい水が流れる穀倉地帯です。水利に恵まれる一方、度重なる野洲川の氾濫で甚大な被害を受け、その脅威と戦ってきた歴史があります。最終的には河西村に決まりましたが、「勝れた水」「水に勝つ」という想いのこもった名称です。

### 2) 野洲川改修

典型的な天井川であった旧野洲川は、かつて川田の先で南流と北流に分れていました。上流の石部あたりでは 500m もあった川幅が、北流と南流をあわせても 150～250m ほどに狭くなり、さらに急カーブした南流に包み込まれるような河西は大雨のたびに堤防が決壊して大きな洪水被害を受けてきた地域でした。中でも大正 2 年（1913）、笠原堤防 180m の決壊は、死者 31 人、流出・倒壊家屋併せて 73 棟に達する記録に残る大惨事でした。その後、昭和 28 年（1953）の 13 号台風による災害を機に、野洲川改修の機運が高まり昭和 46 年建設省直轄事業として工事が開始され、8 年の歳月をかけて昭和 54 年に新野洲川が完成しました。新野洲川は、二股に分かれていた川の真ん中に新しく川床を掘り下げ、幅を広げて作られた放水路で、これにより洪水のリスクは大きく回避され住民の永年の願いがかなえられました。

### 3) 新しい河西の魅力

野洲川の改修で、山のない守山にまるで森林のようであった旧堤防が削られ、至る所で自噴していた湧水池や野洲川の伏流水の取り入れ口は消滅してしまいました。かつての田園風景は一変しましたが、洪水の恐怖から解放された河西は、安心安全で住みよいまちへと変貌しました。野洲川改修完成と時期を同じくして、河西ニュータウンをはじめとした住宅開発や幹線道路が整備され、大規模商業施設も進出しました。また成人病センターや市民病院など医療施設も隣接しています。

新野洲川堤防は 360 度の展望で、比良山、比叡山、三上山が一望できます。河川敷公園はふれあい広場やグラウンドゴルフ場としてにぎわっています。一部残された旧堤防は新堤防より 3m ほど高い位置にあり、民家の屋根が眼下に見下ろせるかつての天井川が偲ばれる自然の史跡です。四季折々花が咲く公園や桜並木が整備されました。水災記念碑や一本松公園など災害の跡を思い起こさせる史跡もあります。かつての集落に点在する神社仏閣は多くの文化財を保有し、地域の皆さんによって護持運営され伝統的な行事が継承されています。

近年設立された工場や自然公園から汲み上げられた野洲川の伏流水は、今なお豊富にまち中を流れ田畑を潤し、昔ながらのおいしい米どころも健在です。

北部の田園地域と南部の市街化地域、さらに新旧混ざり合った新しいコミュニティーを作っているのが河西の大きな特徴であり魅力です。

## 河西の水源と水路

大正11年の河西村水路図によると、かつてこの地域一帯は野洲川堤防の下を通りぬける樋や伏流水による湧や坪に至る所にあり、非常に水利の恵まれた所であったことがうかがえます。

しかし今日では湖水の低下や野洲川改修により川床が変化したため、湧水や伏流水の取り入れ口が消滅してしまいました。

一方、近年建設された工場や自然公園で汲み上げられた伏流水が放流されており、坪や湧に代わって、かつての川戸や河西の水路を潤し水利や景観を保つ努力がなされています。

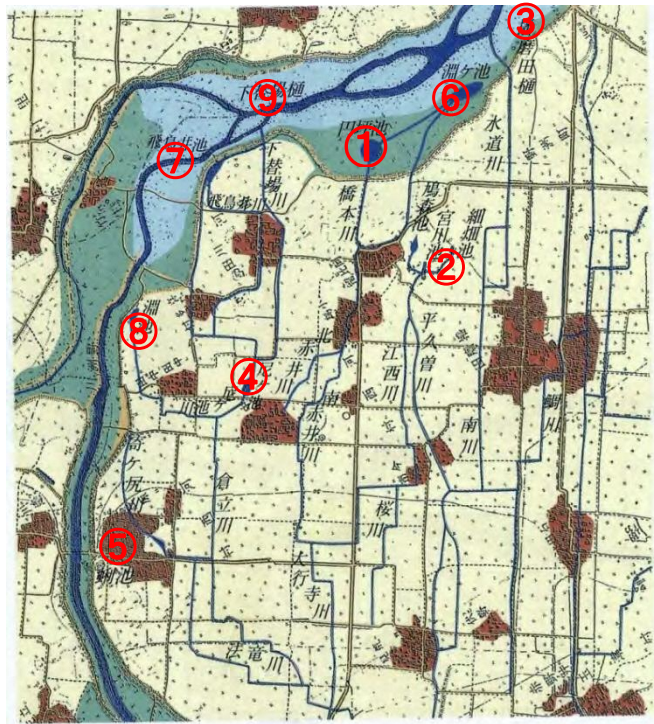


図 河西村水路図（大正11年測図守山市周辺地形図）

図中 ⑥淵が池(橋本湧)、⑦飛鳥井池、⑧淵池⑨下替場樋は、野洲川改修で消滅したが、他の①～⑤の池は、今なお痕跡をとどめている。

① 丸坪池（マップ参照番号：35）

かつての六兵衛山（現在の旭化成(株)守山製造所）にあった周75m余りの湧水池で、小島の里中へ流れていた橋本川の水源である。

同社建設以降は、地下水をくみ上げ放流しており、当時と変わらぬ豊富な河西の水源となっている。（同製造所内に丸坪池跡の碑がある）

② 現在の鳩の森公園にあった湧水池（マップ参照番号：37）

宮川池（江西湧）・・・江西川から今市湧川の水源。

細畑池（矢島湧）・・・現在蛸池 平くそ川の水源

両池は、現在鳩の森公園内に整備され、伏流水をポンプでくみ上げている。

昔の湧水池を偲ばせている。

③ 播磨田樋・・・善岸堤の下を通す樋。水道川で播磨田へ（マップ参照番号：38）

江戸時代播磨田の田中幸右衛門によって設置された樋と水路、今も野洲川河川敷からポンプでくみ上げ水路に流している。

④ 尼ヶ池・・・中村の東田中地先にある水源。倉立川で笠原へ（マップ参照番号：14）

現在は自噴していないが、取り込まれた水を利用して地元自治会の手で整備され憩いの公園になっている

⑤ 蛸池・・・笠原蛸江神社境内にあった水源。地下水をポンプアップし、菖蒲池として整備された。

（マップ参照番号：：2）

## 野洲川堤防

新放水路の完成後、野洲川堤防は公園、グラウンドゴルフ場、ウォーキング道路やサイクリングロードなど市民の憩いの場として広く活用されています。

改修前の野洲川堤防は繰り返される洪水の度に高く盛られ、山のない平坦な守山にあってはまるで小山のような堤防でした。そして堤防を守るために竹やぶが育てられ、地震などの時も竹やぶに逃げ込むなど防災の役割を果たしていました。また、タケノコや竹材などを収穫し、人々の生活に深いかかわりを持っていました。



上の航空写真は、1975年野洲川改修の工事中に撮影されたもので、北流と南流の間に工事中新放水路が写っています。

旧野洲川左岸の堤防道路が連続して曲がりくねっているのが見えますが、大部分は新放水路の川床に沈んでしまったり削られてしまっています。このうちA、B、Cで示した3箇所、今なお旧堤防の面影を見ることができます。

Aゾーン：旭化成グラウンドから一本松公園

新堤防の外側の雑木林と旭化成（株）の間に旧堤防が残されています。以前は、一本松の丘の高さに道路があったので現在は2～3m低くなっていますが、夏でも涼しい木陰の道です。春の桜も見事です。新放水路の河川敷は落差工です。（マップ番号：26）



旧堤防沿いの桜



新放水路 落差工から望む三上山

## Bゾーン：喜多の堤防

旧堤防がそのまま残っており、山のない平坦な守山にあっては、“海拔最高地”と言われていま  
す。右下の写真は新堤防から旧堤防側を、左は三上山側を撮ったもので、道路と民家の屋根の  
高さを比べると、旧堤防の高さが理解できます。



また、二重堤防であった竹やぶが整備されて、グラウンドと遊園地のある北河原公園になりました。公園内には、河西学区まるごと活性化プランで提案された手作りの花壇があります。

(マップ番号：18)

新放水路の河川敷には、川田グラウンドゴルフ場があり、連日大勢のプレイヤーでにぎわって  
います。(マップ番号：19)



9月 彼岸花



3月 すいせん



川田グラウンドゴルフ場

## Cゾーン：笠原堤防 約800m

笠原堤防の桜は守山の新名所となっています。

周辺に蜷江神社、水害記念碑、野洲川通水15周年記念碑、城野曹長之碑などの水害史跡が多  
くあります。



笠原旧堤防の桜並木

(マップ番号：3)



旧堤防から見下ろす蜷江神社



# 水害史跡

野洲川の破堤による災害の記録は、南北流がほぼ固定された14世紀から野洲川放水路が完成するまでの間に74回にも及んでおり、実に7～8年に1度の割合で発生しています。またその記録から、同じ場所が繰り返し破堤していることがうかがえます。なかでも河西地区は被害が多く、田中の田中家に残されている妙蓮にかかわる日記、「蓮花立党留日記」「蓮之立花覚」「蓮立花覚日記」にも江戸時代における川田の冠水の記録が多く残されています。

このように古くから繰り返し洪水の被害を受けてきた河西の野洲川堤防沿いには、多くの水害の後を物語る史跡と水害を抜本的になくすために実施された野洲川改修事業を記念する碑があります。人々の苦闘の跡を示すもので、本冊子においては下記のとおり史跡の紹介をしています。

## 水害史跡

### 1. 水害祈願や復旧を願ったもの

- ・お蛸様池 (蛸江神社) . . . . . (マップ番号：2)
- ・水災記念碑 (笠原) . . . . . (マップ番号：5)
- ・一本松と大神宮 (川田) . . . . . (マップ番号：21,25)

### 2. 水害にあつて殉職した人々を弔ったもの

- ・城野曹長の碑 (笠原 順教寺) . . . . . (マップ番号：7)

### 3. 水害対策用

- ・水止め石 (播磨田、荒見) . . . . . (マップ番号：40,53)

### 4. 野洲川改修記念

- ・集落移転記念碑 . . . . . (マップ番号：8)
- ・野洲川放水路事業の記念碑 . . . . . (マップ番号：1)
- ・野洲川通水15周年記念碑 . . . . . (マップ番号：1)

### 5. その他

- ・川田の石仏と合村伝説 . . . . . (マップ番号：24)
- ・旧堤防 . . . . . (本冊子：p3)

# 河西の古道と道標

マップ参照番号

24.44.51.55

河西を通る古道は東海道や中山道から分岐し、湖上交通への連絡や京都への最短の道として、また西近江の人々の伊勢参りなどの道として利用されていました。

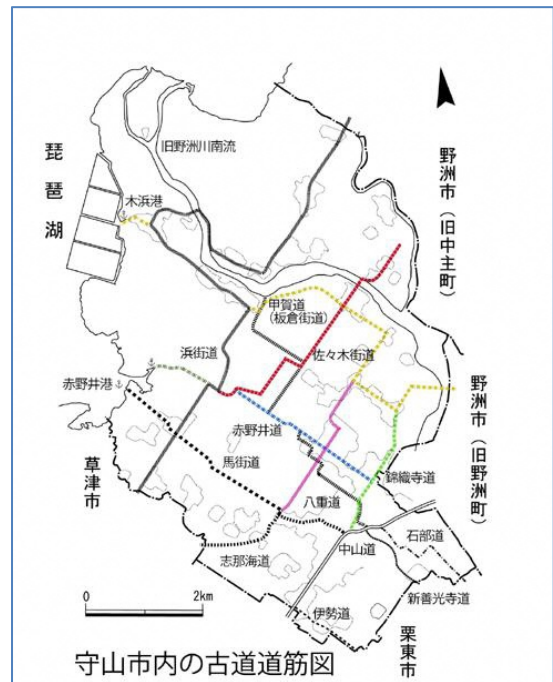
## 1. 佐々木街道 (マップ参照番号: 55)

近江源氏佐々木六角氏が湖南地域を支配するための軍事道路だったと言われています。佐々木氏の本拠である蒲生郡と赤野井港を結ぶ道で、赤野井から布施野、荒見、川辺、笠原、乙窪を経て野洲市小南で朝鮮人街道に合流する道路です。

荒見町内に刻字は見えにくくなっているが石の道標が残されています。



荒見の佐々木街道道標



## 2. 板倉街道

旧木浜漁港から木浜集落、大曲、笠原、中を経て小島で錦織寺道に合流して野洲川を渡り、市三宅、南桜、菩提寺、岩根を通過して甲賀に至る道です。甲賀道と呼ばれ、西近江路からの伊勢参り、また東海道から東国に行く最短道路として重要な道路でした。また逆に甲賀の人々が比叡山や京都へ行くために利用した道路でした。のちに笠原の板倉氏が、物資を運ぶために道路を拡張したので、「板倉街道」と呼ばれるようになりました。

明治34年の道路改修で小島から木浜まで笠原を通らず直線で結ぶ道路が完成し、これ以降この道路を板倉街道と呼ぶようになりました。



現在の板倉街道と錦織寺道の分岐

### 3. 錦織寺道

中山道守山宿で分岐し野洲市木部の「浄土真宗木邊派本山 錦織寺」に向かう参詣道です。

東門院を少し北に行ったところから、中山道と分かれて、元町、八代、阿比留、小島を経て川田で野洲川を竹生に渡り、比江、木部に続く道です。小島で前述の板倉街道と合流するが、中山道の分岐点にある道標に、「左 錦織寺道並こ乃は満みち」と書かれている「こ乃は満」は、木浜のことで甲賀道(板倉街道)を指しています。

錦織寺道沿いには、川田の十王堂があり、野洲川改修の時に集められた石仏、石碑に交じって錦織寺を示す道標が残されています。(マップ参照番号：24)



錦織寺道標(十王堂)  
(マップ番号：24)

### 4. 播磨田道道標 (マップ番号：44)

播磨田西蓮寺の門のそばに

右 かねがもり

左 錦織寺道

と記した石の道標があります。右は下之郷から、金が森御坊へ、左は野洲市木部の錦織寺を示している参詣道路で、地元ではこの道を錦織寺道と呼んでいます。

錦織寺へは、西蓮寺前から現在の琵琶湖大橋取り付け道路を横切り、河西ニュータウンを抜け、江西川を渡り、阿比留で中山道から分岐している錦織寺道に合流します。

道標は、以前中筋道と錦織寺道の交差する位置にありましたが、今は、西蓮寺入り口に移設されています。



### 5. 守山道道標 (マップ番号：51)

守山道は、中町から今市、播磨田を経て金が森に至る道です。

今市皇小津神社の斜め前の十字路に、下半分が道路に埋まっている道標があります。

「右 赤野井御坊」

「左 もり山金ヶ森」

と刻まれ、赤野井御坊は赤野井別院、金ヶ森は、金森懸所を案内したものです。



## 河西学区の遺跡

米の大生産地であり洪水が繰り返された野洲川デルタは遺跡の宝庫です。河西学区においても数多くの遺跡が発掘されています。洪水のたびに土砂が積もり新たな生活の地層が形成されていったため、今日では気づかない先人たちの生活の場が河西全体に広がっていたことがうかがえます。

ここでは、「守山市誌 考古編」に記載されている河西関連の遺跡を紹介します。一部の出土品は、埋蔵文化センターに修復保管されているので訪ねてください。

遺跡名	場所	時代	内容
阿比留遺跡	江西川右岸 小島阿比留交差点周辺	古墳時代 中期～後期	集落遺跡。 30棟以上の竪穴住居や井戸を発掘 川跡から韓式土器や須恵器
播磨田東遺跡	江西川左岸 ハイムタウン周辺	古墳時代 後期	集落遺跡 5世紀～6世紀初頭の古墳群で木棺墓が出土。地域の有力者一族の墓域
八ノ坪遺跡	播磨田衣笠の里周辺	古墳時代 前期～後期	集落遺跡 衣笠（貴人にさしかける日傘）の太刀飾りが出土
酒寺遺跡	播磨田 モリーブ周辺	縄文～鎌倉	集落遺跡。 弥生時代中期の方形周溝墓が30基以上出土
播磨田城遺跡	播磨田南西側 八大神社前付近	鎌倉～室町	集落跡、城郭跡 掘立柱建物・区画溝・井戸跡
狐山古墳	笠原地先	古墳時代	水田の一角に土盛り
川中遺跡	今市町 川中団地周辺	平安時代	集落遺跡 建物跡、土器、銅銭

ツブ エ  
蛸江神社

マップ参照番号

2



主 祭 神	瓊々杵尊
神 紋	木瓜
例 祭	5月4日
本 殿	三間社切妻造 間口二間三尺 奥行二間
拝 殿	入母屋造 間口四間 奥行三間
その他主たる建物	神門 小宮 愛宕堂 神輿部屋 太鼓庫 (部屋) 社務所、地蔵院、毘沙門堂、西源寺
境 内 地	4 1 4 1 坪 飛地境内 2 7 坪
鎮 座 地	守山市笠原町9 3 9 番地
由 緒	<p>第19代允恭天皇時代の西暦441年創建で、延喜式神名帳に記載されている式内社であったと伝えられています。三条天皇長和年間(1012年頃)には社殿再建がなされました。文明年間兵火に罹り、社殿・神宝・旧記等悉く烏有に帰し、封領も奪われ小さい社に三和大明神として一時期祀られていました。しかしその後、佐々木近江守高頼は進藤山城守、目賀田摂津守に命じて新たに高壮な社殿を造り、神田数ヶ所を奉納しました。しかしながら、永正年間(1504～1521)に再び兵火のために荒廃しました。そこで山内の明舜坊が大願を發して郷中の民を励まし、天文12年(1543)に竣工しました。この頃より蛸江大明神と称しました。文化12年(1815)洪水のため社殿楼門はじめ多くが流水し、文政10年(1827)に今の社殿を再建、翌11年(1828)遷宮に至りました。その沿革は大略古老の伝記、伝説、縁起、略記等によって傳承されています。なお、延暦年間(782～806)天台宗叡山開祖自筆の大般若經理趣一卷を大蛸が背負い、琵琶湖から法竜川を遡上って神社へ奉納したところ、村民たちは奇異、靈感を感じて明神の変身として処々に池を造り、鎮め崇めたといわれています。明治初期の神仏分離令により、各地で神社と寺院が分離されましたが、本神社は境内に地蔵院などを配し、神仏習合時の社殿配置を今に伝えています。また、夏には神前で僧侶による大般若經の転読が行われます。当神社の宝物として鱧口、紙本墨書大般若經理趣分一卷、木造天部形立像がありますが、今は滋賀県立琵琶湖文化館で保管されています。</p>

ツ  
エ  
蛸江神社

マップ参照番号  
10



主 祭 神	瓊瓊杵尊
神 紋	木瓜
境 内 社	
例 祭	5月5日
本 殿	一間社流造 間口三尺二寸 奥行二尺五寸
拝 殿	入母屋造 間口二間 奥行二間三尺
その他主たる建物	
境 内 地	
鎮 座 地	守山市笠原町527-5
由 緒	野洲川改修のため、昭和47年(1972)、旧社より、氏子23戸と共に移転遷宮しました。 野洲川洪水による建物、古書、流失し創祀由緒不詳ですが、延暦年間(782~806)伝教大師自筆の般若教理趣分一卷を大蛸が背負い法竜川を逆上って神社へ納め、郷民は奇異靈感を感じ、処々に池を造って蛸を鎮め霊社としたと伝えられています。

ハチマン  
八幡神社

マップ参照番号

13



主 祭 神	應神天皇
神 紋	巴に九耀
境 内 社	稲荷神社
例 祭	5月4日
本 殿	一間社流造唐破風付 間口三尺 奥行三尺 覆屋あり
拝 殿	入母屋造 間口二間 奥行二間
その他主たる建物	神門 神輿庫 社務所
境 内 地	390坪
鎮 座 地	守山市川田町1309番地
由 緒	<p>創祀年代は不詳です。</p> <p>往昔、蓮池境内に鎮座されていましたが、貞享4年(1687)、野洲川堤防の下小河原に氏神として遷座されました。同年稲荷大明神が境内社に鎮座され、のち稲荷神社と称されました。</p> <p>なお、野洲川改修に伴い、社殿修繕、拝殿改築、社務所、神輿庫等の新增築が行われ、昭和49年(1974)現境内に遷座されました。</p>

テン  
天神社

マップ参照番号  
16



主 祭 神	國常立尊
神 紋	右巴に九耀
境 内 社	若宮神社
例 祭	5月4日
本 殿	一間社流造 間口一間 奥行一間
拝 殿	入母屋造 間口二間三尺 奥行二間三尺
その他主たる建物	神門 参集所 神輿庫 倉庫
境 内 地	133坪
鎮 座 地	守山市川田町1143番地
由 緒	社伝によると、舒明天皇七月創祀で、若宮神社には大國魂命、大山津美命を祀っています。



テン  
天神社

マップ参照番号  
20



主 祭 神	天日別命 (アメノヒワケノミコト)
河田 (川田)	大国主命 (オオクニヌシノミコト)
三座大明神	大山津美命 (オオヤマズミノミコト)
配 祀 神	貴船宮 祭神 大己貴尊 (オオナムチノミコト)
神 紋	右巴に九耀
境 内 社	愛宕宮、大神宮
例 大 祭	5月3日 (旧4月11日)
本 殿	一間社流造 間口一間 奥行一間
拝 殿	入母屋造 間口二間三尺 奥行二間三尺
付随建物	社務所 手水舎 神輿庫
境 内 地	2574坪
鎮 座 地	守山市川田町字ハスネダ1371番地1
由 緒	<p>創祀は舒明天皇時代の635年頃。慧隠 (えおん) 法師が唐より持ち帰られた双頭ハスの一株を、泉湧き出るこの地に植えられたとされています。小字ハスネダの地名となり、天神社境内地には「はすねだこども園」が開園されています。</p> <p>伝記明細帳等は、度重なる野洲川決壊により流失しており、確定的な伝承は不詳となっています。</p> <p>配祭神 (本殿北側の小宮社) は遺跡「合村」に鎮座されていた社を合祀されました。</p> <p>大神宮は、野洲川堤防の守護神として「川田の一本松」の根元に祀られていましたが、野洲川大改修のため、昭和47年に天神社境内に遷されました。</p>

ワカ ミヤ  
若宮神社

マップ参照番号

29



主 祭 神	市杵嶋姫命
神 紋	木瓜
例 祭	5月5日
本 殿	一間社流造 間口二尺 奥行四尺
拝 殿	入母屋造 間口三間 奥行三間
その他主たる建物	神門 幣殿 神輿庫 手水舎 社務所
境 内 地	8 2 7坪
鎮 座 地	守山市中町1 1 2番地
由 緒	<p>「野洲郡史」には、「志略に挙げる若宮大明神社がこれである」と記され、明治9年(1876)村社に、また、明治41年(1908)神饌幣帛料供進に指定されました。</p> <p>社歴については野洲川洪水の被害、特に嘉永元年(1848)の堤防決壊により、社殿は破壊され、由緒社記の流失により詳らかではありませんが、中村産土神市杵嶋姫命一座を祀り、若宮大明神と称したことが慶応4年(1868)の御届文書、及び明治12年(1879)古老口伝の社記で明らかです。社宝として、鏡一面、棟札一枚があります。</p>

テン マン グウ  
天 満 宮

マップ参照番号  
**32**



主 祭 神	菅原道真公
境 内 社	八幡神社 天照大神社 熊野神社
神 紋	梅鉢
例 祭	5月5日
本 殿	一間社流造 間口三尺二寸 奥行二尺七寸
拝 殿	入母屋造 間口三間 奥行三間
その他主たる建物	幣殿 神輿庫 手水舎 社務所
境 内 地	1 1 5 2 坪
鎮 座 地	守山市小島町 1 5 7 1 番地
由 緒	<p>嘉暦元年(1326)に鎮座されました。</p> <p>寛永15年(1638)に修繕され、その後弘化3年(1846)に再建された旨の古文書が残っています。</p> <p>明治9年(1876)村社、大正9年(1920)神饌幣帛料供進に指定されました。</p> <p>社宝として、縁起書一卷、棟札一枚、鏡一面があります。</p> <p>境内には、今では貴重なツガの木が茂っています。</p>

# 八 田 神 社

マップ参照番号

35



主 祭 神	八田御食津神
境 内 社	白髪神社
神 紋	梅鉢
例 祭	5月4日
本 殿	一間社流造 間口一間 奥行一間
拝 殿	入母屋造 間口三間 奥行三間
その他主たる建物	中門 神輿庫 手水舎 社務所
境 内 地	1 5 0 8 坪
鎮 座 地	守山市小島町 1 2 6 0 番地
由 緒	宇多天皇の寛平5年(893)近江国野洲郡敷地荘杉和賀(現在の鎮座地)に創立されました。当時は八田大明神と称し、のち八田神社と改められました。明治9年(1876)村社、大正9年(1920)に神饌幣帛料供進に指定されました。なお、境内社白髪神社は覆屋内にあって、本社と同時代に祭神猿田彦命を祀りました。境内には、中国南部原産のコウヨウザンの大木や大きなナナメノキが生えています。

ハッタ  
八大神社

マップ参照番号  
45



主 祭 神	大己貴命
境 内 社	巖島神社
神 紋	織田瓜
例 祭	5月5日
本 殿	一間社流造 間口一間三尺 奥行一間
拝 殿	入母屋造唐破風付 間口三間 奥行二間三尺
その他主たる建物	神輿庫 手水舎 社務所
境 内 地	779坪
鎮 座 地	守山市播磨田町1155番地
由 緒	<p>社記などによると、50代桓武帝勅願所金剛澄寺の神託により、75代崇徳院大治2年(1127)に垂跡され、仁安元年(1166)百済姓刑部少輔富が社殿を建立されました。</p> <p>その8月大己貴命を勧請し、八大天王宮と号しました。のち八大神社と改称したものと伝えられています。</p> <p>明治9年(1876)村社、大正13年(1924)神饌幣帛料供進に指定されました。</p> <p>境内社の巖島神社は、播磨田宿弥が大和百済郷から奉持し、この地に安置したと社記にあります。</p>

荒神社

マップ参照番号  
48



主 祭 神	奥津彦命
神 紋	三つ巴
例 祭	3月3日
本 殿	一間社流造 間口一間 奥行一間一尺
その他主たる建物	神門 参集所 手水舎 倉庫
境 内 地	84坪
鎮 座 地	守山市播磨田町1914番地
由 緒	慶安元年(1648)奥津彦命を勧請し、氏神として現在に至っています。 現本社は明治初年(1868)改築されたもので、旧社殿は本社脇に保存されています。

スミ オ ツ  
皇小津神社

マップ参照番号

50



主 祭 神	天智天皇
神 紋	木瓜くずし
例 祭	5月5日
本 殿	一間社流造 間口二尺 奥行二尺
その他主たる建物	神門 神輿庫 手水舎 大時計台 社務所
境 内 地	369坪
鎮 座 地	守山市今市町102番地
由 緒	貞享元年(1684)、祭神天智天皇を杉江町の式内小津神社より勧請遷宮しました。大小津大明神と称し、宝暦6年(1756)小津神社別当智泉院潤寺の支配を受け、小津神社氏子十九郷の一に加えられました。小津神社の祭礼には赤ノ井小津若宮まで渡御が行われましたが、明治元年(1868)神仏判然令によって小津神社から分離、皇小津神社と改称されました。また、明治9年(1876)には村社に加列されました。大正9年(1920)天智天皇が漏刻報時を始められてからの1250年を記念して、時の記念日奉告祭を斎行しました。

テン  
天神社

マップ参照番号  
56



主 祭 神	菅原道真公
神 紋	梅鉢
例 祭	5月4日
本 殿	一間社流造 間口三尺 奥行二尺
その他主たる建物	神門 倉庫 手水舎 社務所
境 内 地	255坪
鎮 座 地	守山市荒見町404番地
由 緒	古くより慈園大明神と称し、慶長7年(1602)の頃水害に罹り流出しました。 寛文13年(1673)に再興され、明治9年(1876)に村社に加列、天神社と号されました。



キ ウン ザン フツ ゲン ジ  
**輝雲山 佛眼寺**

マップ参照番号  
**4**



寺 号	輝雲山 佛眼寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗木辺派
所 在 地	守山市笠原町639番地

開基は滋賀県市町村沿革史によれば、正平13年(1358)了覚とあり、吉野朝時代に草創されたものでありましょうか。

錦織寺記録には、宝徳元年(1449)、僧周慶建立とあり、室町時代に寺宇の建立がなされたものと考えられます。

永禄12年(1569)に錦織寺本山法主の滋澄上人が本寺に隠居され別院格となったとのことです。

本尊の胎内に聖徳太子の作と伝えられる胎内仏が安置されており、鑑定によれば室町時代のものと推定されるとのことです。

阿弥陀如来像は覚如上人作と伝えられています。

コウ ゲツ ザン      ジュン キョウ ジ  
**江月山 順教寺**

マップ参照番号  
**6**



寺 号	江月山 順教寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗大谷派
所 在 地	守山市笠原町4 1 5 番地

開基は永正2年(1505)善崇となっており、木仏寺号御免は天和3年(1683)2月25日となっています。

宗祖聖人御影は宝暦10年(1760)、蓮如上人御影は宝暦14年(1764)で、聖徳太子御影と七高僧御影は文化7年(1810)となっています。

当寺にはいずれも蓮如上人の真筆になる阿弥陀如来御影(一幅)、十字名号(一幅)、親鸞聖人・蓮如上人連座の御影(一幅)があります。

光雲山 浄宝寺

マップ参照番号  
9



寺号	光雲山 浄宝寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	真宗木辺派
所在地	守山市笠原町川辺527番地7

当院は、治承年間（1177～1181年頃）には既に、旧新庄町川辺の地で天台宗に属する寺院として存在していたようです。

現在のように真宗木辺派に属したのは定かではありませんが、当寺に安置されている阿弥陀尊像裏書に、「本尊修復に付改御裏下附候事 元龜2年(1571)辛未2月11日慈澄上人 川辺正善へ」と記されていることから、元龜2年には既に木辺派に帰属していたことは明らかです。

現在の本堂は、弘化2年(1845)浄宝寺第14代住職岳善の時に再建されたものです。

それから、126年後の昭和46年(1971)、野洲川大改修という歴史的な大事業の実施に伴い、今の地に移転をし、本堂、太鼓堂、鐘楼、門等以前と同じ姿で現在に至っています。

田中山 教順寺

マップ参照番号  
12



寺号	田中山 教順寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗本願寺派
所在地	守山市川田町1725番地

寛文12年(1672)3月教順によって中興されました。  
延寶2年(1674)正月晦日寺号を公称しました。現在の本堂は文化5年(1808)の  
再建に係るものです。昭和59年(1984)3月に本堂の修復が完工しました。

ジョウゲザン ショウレンジ  
**浄華山 正蓮寺**

マップ参照番号  
**15**



寺号	浄華山 正蓮寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗本願寺派
所在地	守山市川田町1136番地

当寺の創建については『滋賀県の地名』（日本地名史体系第25巻）平凡社出版、1991年）の「守山市－川田北村」の項に記されているように、「永正14年（1517）の草創、開基は道心、常楽寺下。天保下寺帳には和州市願行寺下。寛政4年（1792）末寺帳には八幡御坊配下」とありますが、残念ながら上記創建の模様を記した文物は現存しません。

しかし、平成5年（1993）正蓮寺再建の際に発見された「秀悦住職」師の絵像と、昭和24年（1949）に出た「棟札」の記述にある「一百有余之史跡であったが火災で焼失、元禄7年（1694）に再建した」と、当事者であった「現住秀悦謹誌」の記録とが完全に一致しました。従い、当寺は創建以来487年の歴史を持つことが判明しました。

法宝物としては、御開山聖人御影（寛永3年（1626））と太子高僧御影（同元年（1624））の2点がありますが、後者については先の再建2年前の昭和52年（1977）、本山に申請下付（本願寺事務釈即如印）され、現在は新しい御影をお飾りしています。

シ ウン ザン ジョウ ウン ジ  
**紫雲山 浄雲寺**

マップ参照番号  
**22**



寺 号	紫雲山 浄雲寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗木辺派
所 在 地	守山市川田町853番地

明治20年(1887)代頃盗難にかかり、堂院の重要書類を失いました。  
 従って、沿革等に関する資料の残存がありません。

ガン ショウ ザン ショウ フク ジ  
願生山 正福寺

マップ参照番号

23



寺 号	願生山 正福寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗大谷派
所 在 地	守山市川田町871番地

当院は万治2年(1659)五郎右衛門道場に始まります。  
 秀悦坊開基として本願寺より正福寺号を受けました。  
 現在の本堂は、天明6年(1786)に再建され現在に至っています。  
 現在の住職は開基より数えて第18世となります。  
 宝物として、聖徳太子御影(宝暦8年(1758) 賜大谷本願寺 釈從如)・  
 七高僧御影(宝暦8年(1758)賜大谷本願寺 釈從如)・親鸞聖人御絵像  
 (賜大谷本願寺 釈從如)があります。

ガン ホウ ザン キョウ シン ジ  
願法山 教信寺

マップ参照番号

27



寺号	願法山 教信寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	真宗大谷派
所在地	守山市中町167番地

延暦2(783)壬申年、霜月下旬宗祖聖人越後より常州久慈郡大門の郷に来たり給う。その頃、近江国加茂郡日野左衛門尉秋大将、勅勘を被って大門の郷に遠流される。聖人日野家に立ち寄って一宿を乞われたが、日野家は勅勘を蒙むる身を憚ったので、聖人は是非なく門外に出て石を枕に宿し給う。

左大将、其の夜夢の中に貴僧が来て、「門外に生身の弥陀如来が来現し給う。汝の家に奉迎するように。」と告げられる。

霊夢に愕然として夜中、門外を窺い見ると、貴僧、石を枕に伏して仏号を称え、口内より光明が出ていた。左大将は驚き、我が屋内に請し奉り、丁寧に饗応する。聖人の御教化を蒙って左大将は上足の弟子となり、聖人より入西坊道円と法名を給わる。

後、内田の地に移転。慶道、延徳の頃、江州野洲郡中村に来り、永正2(1505)乙丑年一字を建立する。実如上人本尊を慶道に授けられる。沈石寺は大門より内田に移転。出生地をとって日野姓を内田と改め天和2(1682)戌年教信寺の号を給わる。元禄10(1697)丑年、将軍綱吉公より仏供田、併に境内を拝領する。



ホウ トク ザン エイ ショウ ジ  
法徳山 永生寺

マップ参照番号

28



寺号	法徳山 永生寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗本願寺派
所在地	守山市中町146番地

当寺の開基第1世、鈴木永賢師、慶長12年(1607)3月23日入寂の記録があります。鈴木家は13代で還俗しました。

明治39年(1906)池田義諦入寺住職(第14代)となり、その後の永生寺は池田家となりました。

弘化3年(1846)に現在の本堂が再建されました。

慶応2年(1866)東照権現二百五十回忌勤修の記録があります。

ハツ ショウ サン ジュウ ガン ジ  
**八松山 重願寺**

マップ参照番号  
**30**



寺 号	八松山 重願寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗大谷派
所 在 地	守山市小島町1549

明応2年(1493)、教信を開基とします。  
 過去において、水害の為、堂院の重要書類が喪失してしまいました。  
 従って、沿革等に関する資料の残存がありません。

スギ ワカザン ゲン フクジ  
杉若山 源福寺

マップ参照番号

31



寺号	杉若山 源福寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土宗
所在地	守山市小島町1572番地

小島天満宮に接して源福寺があり、境内には浄土三部経や一枚起請文等を納めた経塚があります。

当寺は浄閑により、天保3年(1832)に開基されています。



寺 号	安立山 西方寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	真宗大谷派
所 在 地	守山市小島町1241

古文書によれば、西方寺は元、天台宗の寺で山号は安立山金光院西方無寿寺と称しました。

円仁大師が承和3年丙辰年(836)、54代仁明天皇の勅願により草創され、58代光孝天皇仁和年中(885~889)に證円法印により諸堂、即ち多宝坊、一乗坊、三車院、円頓坊、妙法院、仏乘院、宝鏡坊、平等院の塔頭八坊が再建されました。寺領は1,500石あったと記されています。

18世寛賢の時、嘉禎年中(1235~1238)親鸞聖人が当国を教化の節に拝謁したが、宗派を改めるには至らず、26世顕乗の時、長祿(1457~1460)頃、真宗の道場となりました。浄土真宗に改められてから、現住職で19代となります。

境内の薬師堂には、円仁大師作といわれる薬師如来座像が安置されています。

ショウヨウザン サイレンジ  
**照曜山 西蓮寺**

マップ参照番号  
**41**



寺号	照曜山 西蓮寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	真宗木辺派
所在地	守山市播磨田町456番地

開基西方(覚翁)が永禄12年(1569)、錦織寺第10世慈澄上人より法名を頂戴しました。

本尊阿弥陀如来御絵像(寺伝によれば源信僧都作)を元亀2年(1571)4月17日に播磨田惣仏として、錦織寺より下賜され安置されました。これが当寺の創立と推定されます。

元禄元年(1688)第3世玄貞の代に「親鸞聖人御絵像」を、正徳4年(1714)

第4世貫随の代に「聖徳太子御影」を、又享保4年(1719)

第6世慣瑞の代には「七高僧御影」を戴きました。

第19世信成の代に寺子屋「洗心堂」が開設(守山市内で最初の寺子屋で、明治2年まで続けました。)されました。現在も当時使用された勉強机が残っています。

第20世信岳は明治政府の廃仏毀釈による宗教統制に反対し、信教の自由を求める真宗四派の代表の一員として活躍、その後錦織寺掌頭として大任を務め、没後伝燈師の称号を授かりました。当寺の境内には信岳の顕彰碑が建立されています。又、西蓮寺石造板碑(石造塔婆の一種で、鎌倉時代後期の作と考えられる。)が信岳顕彰碑の横に保存されており、守山市の指定文化財となっています。

コン ゴウザン エン メイジ  
**金剛山 延命寺**

マップ参照番号  
**46**



寺号	金剛山 延命寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗本願寺派
所在地	守山市播磨田町1135番地

桓武天皇の御宇、百濟宿称播磨田連義運に一精舎を創立せしめられ、金剛澄寺又は播磨田寺と称されました。伝教大師を開山とし、延暦10年(791)のことです。102歳で卒せられました。長男運観が金剛澄寺住職として入られました。永享6年(1434)天台宗を大谷本願寺に宗旨替えになりました。寺号を金剛山延命寺と改め、初代住職英幸を覚法と改め、開基とします。2代目善性は蓮如上人に深く帰依し、上人より了道と改名拝受し、ご愛用の念珠一連を受けられました。現在寺宝として残っています。本堂は天明6年(1786)に修復され、同8年(1788)に完成しました。昭和41年(1966)に隣接地一反歩を拡充しました。昭和46年(1971)1月に災火により本堂は全焼しましたが、昭和49年(1974)に再建されました。

シキチザン      エン      リウ      ジ  
敷智山      圓立寺

マップ参照番号  
47



寺号	敷智山 圓立寺
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗本願寺派
所在地	守山市播磨田町1113番地

当寺の元祖は広国という人で、延暦10年(791)に播磨田寺という天台宗の寺として創建されました。後に田中元綱が永享7年(1435)に出家し、法光坊長観と名のりましたが、本願寺蓮如上人のご化導をあおぎ上人の直弟子となって法名善性を賜ると同時に真宗寺院に変わりました。

寛正3年(1462)に親鸞聖人・蓮如上人のお二人を描いた「連座像」を蓮如上人自から播磨田総門徒中に授けられて以来、蓮如上人ご旧蹟となりました。また、善性から6代後の友綱は頭如上人に仕え、石山合戦の節には上人から檄文を受けて幾多の功績を残しました。

以後、歴代住職の努力によって法灯連綿として聖人のみ教えを受け継いでいます。近年、茶所・鐘楼・太鼓堂を併せた「望雲閣」の建設、本堂屋根・内陣・山門の修復、客殿の新築をして、境内の整備を行いました。仏婦・仏壮・日曜学校等の活動を行っています。

宝物として、「親鸞聖人・蓮如上人連座像」、「十字名号」、「頭如上人檄文」他があります。また、本尊や御開山等の打敷は、同寺の仏教婦人会が手作りの鮮やかなパッチワークでご荘厳されています。

マン ガン ジ  
万願寺

マップ参照番号

49



寺号	なし
本尊	阿弥陀如来
宗派	浄土真宗
所在地	布施野自治会館内

布施野自治会館内にあり、特定の住職は無く、普段は当寺に所属する門徒が勤行を行っているそうです。現在の建物は昭和59年(1984)に改築されていますが、それ以前の建物は「道場」と云う呼称で住民に親しまれていました。当寺の沿革として、本尊である阿弥陀如来絵像は明応5年(1496)と記されています。

また、両側の名号軸はそれ以前の作と推定されていますが、蓮如上人が聞光寺ご滞在の折に直接下賜されたものと考えられます。

本寺は山号は無く、寺号も登録されてはいませんが、今も地元の人々によって護持運営されています。



サイ モン ザン ガン リュウ ジ  
**最聞山 願立寺**

マップ参照番号

52



寺 号	最聞山 願立寺
本 尊	阿弥陀如来
宗 派	浄土真宗本願寺派
所 在 地	守山市今市町129番地

寛永10年(1633)に今市村の聞法の惣道場として空念により開設されました。

万治元年(1658)妙順を開基として「願立寺」と称しました。

宝永元年(1704)に本願寺第15世住如上人から木像の本尊と寺号を下附されました。

弘化4年(1847)に栗太郡下物最乗寺本堂を買得し、再建されました。

昭和52年(1977)に鐘楼堂が新築され、梵鐘を購入しました。

平成25年(2013)7月に新本堂が竣工され、落慶法要が営まれました。